



合掌造り学習模型を作ってくれた平瀬小の五人

白川郷の合掌造り



第11号

平成21年3月31日

発行 (財)世界遺産白川郷合掌造り保存財団
岐阜県大野郡白川村荻町2495番地の3

平成20年7月我が白川村の悲願であった東海北陸自動車道の飛騨清見白川郷間が完成全線開通し、陸の孤島から完全に脱却しました。この間の利用台数は予想を遙かに上回る1日平均7000台とも言われ、白川郷を訪れる観光客は大幅に増加しています。観光客の増加は観光以外の目玉産業の無い白川郷にとっては大変喜ばしいこととなっています。

一方で、世界遺産荻町合掌集落を取り巻く環境の変化を考えると、必ずしも喜んでばかりはいられない現状があります。それは、集落の中を行き交う

陸の孤島からの脱却と合掌集落

白川郷荻町集落の自然環境を守る会
会長 板並和夫

車の群れであり、観光客目当ての商店の看板や工作物・陳列品等と観光客の群れは、世界遺産の農村集落としての環境にはほど遠いものとなりつつあります。また、観光業の盛況とは裏腹に稲作を主体とした農業を取り巻く環境は厳しく、集落内の農地保全も難しくなっています。陸の孤島であったが故に他地区との交流も少なく受け継がれてきた農村集落・文化風習が今日大きく変化してきています。

昔から荻町を知る観光客の中には著しい集落の変化を嘆き、朝・晩の車や人の少ない時間帯を好んで訪れ散策する方もおられると聞いています。

農村景観等の改善に当たっては、集落内の電柱電線は行政や電力会社等のおかげでごく一部を除き地下埋設が終了しており、今後はテレビ線の地下埋設をお願いし、進める必要があると考えています。このほか、今年度寺尾地区での駐車場の建設が予定されており、近年中には荻町集落内幹線道路の舗装・側溝等の整備も計画されて集落内のハード面の整備は進んでおります。

このような状況の中で荻町区を取り組みとして、本年4月から実施の集落内への大型車の乗り入れ規制は環境保全への一歩前進と考えています。今後は、荻町区民及び地区内の営業者等がどのような意識を持って世界遺産と向き合っていくかが更に重要になると考えます。このため、白川郷荻町集落の自然環境を守る会としても、昨年1年間かけて議論し取りまとめた「世界遺産マスタープラン住民検討会議からの提唱」を踏まえ、世界遺産の恩恵と継承の必要性を理解し住民が自ら取り組むべきこととして、農地や景観の保全・結いに代表される助け合いの精神や文化の伝承等について荻町住民とともに取り組む、日本を代表するの農村環境の維持改善に努めたいと考えています。

財団法人世界遺産白川郷合掌造り保存財団と村当局の一層のご指導ご協力をお願い申し上げます。

人材育成事業

合掌造りをつくったよ!!

平成18年度人材育成事業で作成した「合掌造り学習模型」を平瀬小学校の児童が実際に作ってくれました。今年の平瀬小学校の総合学習のテーマが「合掌造り」ということで合掌財団も協力させていただきました。授業は一学期中をかけて行われ、五つの班に分かれて合掌造りに関係することを班ごとに調べて最後に全員に発表するというものでした。その中の「合掌造りをつくらう」班が「合掌模型」を作成してくれました。ここでは一生懸命取り組んでくれた子供たちの様子をお伝えしたいと思います。

① 部材の名前を覚えよう

■ 5月23日

合掌造りの模型はばらばらの状態から組み立てます。どの部材がどこに組み合わさるのかを知ることからはじめました。模型の図面に部材の名前を書き込んでもらい、ばらばらにおかれている部材に名札をつけてもらいました。最初は聞きなれない名前がたくさんで困惑していた子供達も実際の部材に名札をつけるときは、みんなで相談しながら全部の部材に名前をつけることができました。



1. 部材につける名札をつくって名前を覚えます。

② 縄の準備をしよう

■ 5月29日

この日はヤナカと合掌材を結束するための縄の準備を行いました。ヤナカと合掌材は「ハコ巻き」で結束しますが、結束する前に結束する数だけ縄を切っておく必要があります。縄の長さは結束する部材の太さによって決まるので、実際に一度結束してみて長さを確認してから切りました。最後にみんなでハコ巻きの練習をして来週の作業に備えます。



2. 土台の上にウス梁を載せます。ようやく組立作業らしくなってみんなやる気満々です。

③ ハコ巻きを覚えよう

■ 6月6日

まちに待った合掌起こしの日です。小屋組の台となる土台を組み立てた後、合掌材の載るウス梁を敷き、合掌材を組み立てます。三列の合掌を組んで筋交いであるオオハガイを入れた後、ヤナカを合掌材に結束して合掌材を繋ぎます。この日はヤナカと合掌材を結ぶ「ハコ巻き」を勉強しました。最初は縄の扱いに戸惑っていましたが、何度も繰り返しわかってくると、やっとない場所を探しては熱心にハコ巻きを練習して出来るようになりました。



5. ハコ巻きに挑戦中。真剣です。



4. 三列の合掌材をヤナカ(母屋)で繋ぎます。



3. ウス梁の上に合掌を組みます。倒れない用に一生懸命支えます。

④ ネソを使ってみよう

■ 6月20日

今日はヤナカの上にクダリ(垂木)を取り付けます。ヤナカとクダリはマンサクの若木(ネソ)を使って結束します。そのネソを結束材として使うための「ネソ練り」作業を体験してもらいました。ネソ練りは大人でも相当な力があるので大変そうでしたがなるべく細いネソを選んで練ってもらいました。



ネソ練りの後はクダリをヤナカの上に並べ、「ネソ巻き」作業に入ります。ネソ自体みんな触るのが初めてなのでネソ巻きはさすがに大変そうでしたが何とかクダリをとめるところまでこぎつけました。

6. ネソを練って繊維をほぐします。子供達も曲げても折れないマンサクに驚いていました。

⑤ ようやく完成です

■ 6月28日

今日は合掌模型竣工の日です。屋根の妻の両端のカタキリに取り付ける「カタキリザオ」と軒先に取り付ける「アサガラモタセ」を縄で結束して完成です。完成した後、もう一度それぞれ部材に名札をつけてどの部材がどの位置に納まったのか確認して作業終了です。



8. ネソカケは力があるので大変です。



7. ヤナカの上にクダリを並べます。

⑥ 発表の日

■ 7月10日

いよいよ一学期取り組んできた成果を発表する日です。実際にみんなの前でネソ練りや縄巻きを实践して取り組んできたことを発表しました。学んできたことを他の生徒さんや親御さんにはっきりと伝えることができてとてもすばらしい発表だったと思います。



10. 完成した合掌造りのそれぞれの部材に名札を付け直します。



9. 誰が一番早く巻けるかな。アサガラモタセをヤナカに結束。

● 授業を終えて

今回の授業を通して平瀬小学校の子供達にとっても感心したことがあります。それは一つの目標にむかってみんなを取り組むという姿勢がすでに出来ているということです。参加したのは三年生から六年生の子供達で普通であれば自分のことで手一杯になりがちですが、高学年の子が下の学年の子たちの仕事の割り振りをしてあげたり、仕事ぶりを見てあげたりする、また、低学年の子はそういった手助けを受けながら自分のやることを一生懸命取り組む。そういったことが自然に出来ていることにとっても驚きました。今後も白川の子供達にこの「合掌造り学習模型」を使ってもらって合掌造りを肌で感じてもらえればと思います。



11. ハコ巻きの実践演習中。はっきり大きい声で発表できました。

平成20年度文化財修理報告

文化財専門設計監理技師 松本継太

■松古玲子家(城山館)

伝建非合掌 No.5

建物の規模	
桁行	16 m
梁間	11.3 m
床面積	358 m ² (工事対象116 m ²)

城山館の歴史

城山館は現当主松古卓也さんの曾祖父にあたる松古清次郎さんが明治時代に建てたと言われている。松古清次郎さんは明治三十八年、日露戦争で二十五歳の若さで戦死しているため、城山館はそれ以前の明治三十年代に現住所に建てられたと推測できる。卓也さんの母玲子さんが聞いている話では清次郎さんが富山の方から移築してきたものであるという。城山館は清次郎さんの戦死後、妻である志づさんによって旅館兼雑貨商として大正時代に開業した。当時は「志づみせ」と呼ばれて地元で親しまれていたという。今回の修理時に多数の宿帳や大福帳、貸付帳等の資料(写真1)がでてきたが、その中で一番年号の古い資料は「大正四

年」の大福帳である。大福帳とは誰がいつ何をいくらで買ったかが記載された商業帳簿である。内容を見ると酒や菓子、衣類や食糧品など様々な物品を取り扱っていたことがわかる。このことから少なくとも大正四年前には雑貨商を開業していたことがわかる。玲子さんからの聞き取りによると「開業当時は商人のお休み処のようなもので、天生峠や白川街道を馬を引いて行商にきた人の休憩所のような場所であったと聞いている。」といい、実際に地下部分には馬を繋ぐ「マヤ」もあったといい、そういった商人の人々の宿場にもなっていたそうだ。玲子さんの話では



写真1：発見された各種帳簿



写真2：大正八年帳簿表紙の押印と同じもの



大正時代の城山館(左端)：屋根がクレ葺き。

「松古」という名が書かれた電灯カバーが残されていたといい城山館の前は旅籠松古という名前で営業していたのではということであった。発見された資料で「城山館」の文字が確認される一番古い資料は大正八年の帳簿の表紙で「雑貨商、旅人宿、城山館 松古志づ」という押印(写真2)が確認できる。このことから大正八年以前には城山館の名で旅館を開業していたことがわかる。旅館の宿帳の古いものでは「大正十五年」の旅人帳が残っている。この旅人帳を見る限りでは、現在のようないろんな旅行者を相



大正末～昭和初期の城山館：正面庇に破風のついた外観だった。二階の軒に持ち送り付き腕木が見える。

手とした営業形態ではなく、月に何度も宿泊するようなお得意様を主体とした旅館であったことが窺える。大正時代のこの時期は明治初期から永い間国有林の払い下げ起訴で係争していた村が起訴を取り下げた縁故特売を願うという機運が高まっていた時期で、村から国有林特売交渉を委任されていた「飛州木材株式会社」(大正九年設立)が白川村内の払い下げ国有林の立木伐採作業に頻繁に出入りしていた。城山館はそういった木材業者の人々の宿にもなっていたといい、発見された資料の中にも商品注文書の綴りが多く残されており、このような木材業者の安定した需要があったことが旅館の開業に繋がったとも言えよう。このように城山館は大正から昭和初期にかけて開業した白川村の旅館建築の遺構として重要な建築物である。

建物の概要

現在の城山館は桁行16m(八間半)梁間11.3m(六間)の本屋に北側に3.67mの出の落屋と南側に1.52mの出の落屋を付け、北側落屋の西側に桁行7.28m梁間4.97mの付属屋①と桁行11.6m梁間4.6mの付属屋②を渡り廊下で繋ぐ。本屋は木造三階建てで正面道路より2.2m下がった敷地に立つ。

本屋の北側壁面筋から桁行方向五間半の部分が明治三十年代に移築された部分で、大正初期に北側落屋を増築して旅館を開業した。昭和に入り北側落屋の西側に風呂場を増築し



昭和20年代の城山館：屋根がトタン葺きになり庇も現在のようになっている。正面三間が玄関となっている。

て渡り廊下で繋ぎ、昭和四十二年にその風呂場を改築したものが現在の付属屋①である。その後、昭和五十七年に付属屋①の南側に客室三室を増築(付属屋②)し、昭和六十年に本屋を南側に桁行三間分増築して現在に至る。

今回修理した本屋建築当初部分の一階の間取りは、棟通りに一間幅の土間廊下を設け、廊下を境に部屋を表裏に分け、表側は北側から二間が倉庫①、その下手に二間の蔵、その下手一間半は地下水が湧き出るシュウズ場、背面側は北側一間が倉庫②、その下手一間半が六畳間の部屋①、半間の廊下を挟んで下手に二間半の八畳間の部屋②で部屋の背面側に半間幅の廊下が通っている。玲子さんからの聞き取りによると正面側の倉庫①は昔商人が引いてきた馬を繋ぐマヤで、背面側の部屋①と部屋②を半分に間仕切った下手が旅館の女中さんの部屋で部屋②の半分が旦那さんの部屋であったという。

この中でシュウズ場の水は近隣の人々が汲みに来たりスイカ等の食物を冷やしたりと重要な湧き水利用の場となっていたようで、そういう意味では当時の生活を物語る重要な環境資源であると言える。



昭和59年の城山館：玄関が現在の規模に。



現在の城山館：左側三間が昭和60年増築部、右奥が昭和42年改築の風呂場兼客室棟

修理の概要

今回修理をしたのは明治時代に移築された建築当初部分の一階及び基礎部分である。修理を必要とした原因は本屋の土台の腐朽によるもので、それにより建物の沈下を引き起こしていた。土台腐朽の一番の原因は土台が敷地に接していたことと地下水からの湿気で、城山館の敷地は地下水位が高く20cmほど掘ると水が染み出てくるような地盤であった。それに加え正面道路から一段下がった位置に建物が建っているため雨水などの排水が建物に流れ込んだため土台腐朽に拍車をかけていた。特に



昭和59年の城山館：背面側二階から一階にかけて半間の下屋が妻側まで廻って廊下となっていた。

入口玄関下の土台は腐朽して既になくなっており、敷居レベルが一番高いところの柱と比べると7cm程下がっていた。また、背面側の床が張ってある部屋の土台は全て腐朽しており、根太や床板その上に乗る畳も湿気によって朽ち果てた状態であった。今回の修理ではこれら腐朽材材の取替修理と併せて地盤下からの湿気の解消と耐震補強工事を行った。

修理前に行なった地盤調査の結果、建物下の敷地レベルから1m下に岩盤層があり、その間は地耐力の無い砂質土層であることがわかったので基礎を岩盤層に着床させることとした。基礎は柱毎に丸鋼杭を岩盤レベルまで打ち込んでその上にコンクリート独立基礎を打設した。土間は地盤からの湿気解消のため、防水シートの上に土間コンクリートを打設した。耐震補強は木造三階建てという特殊性を踏まえ構造計算に則った耐震壁補強を行った。

また建物背面側は修理前、掃き出しのアルミサッシ引き違い戸が設置された状態であったが、もともと設置されていた古い雨戸が二枚他の場所に転用されて残っていたため昭和初期の古写真に則って背面側に雨戸を復原して当時の外観に近づけた。



解体中のシュウズ場：シュウズをまたいでいる土台がシュウズからの湿気で腐っている。



修理前倉庫：正面側土台が腐朽して無い状況。



修理前背面外観：アルミサッシが入っている。



修理後のシュウズ場：土台をシュウズの湿気を受けないレベルまで上げてコンクリート梁を渡した。正面側各部屋の土台レベルはこの高さを基準とした。



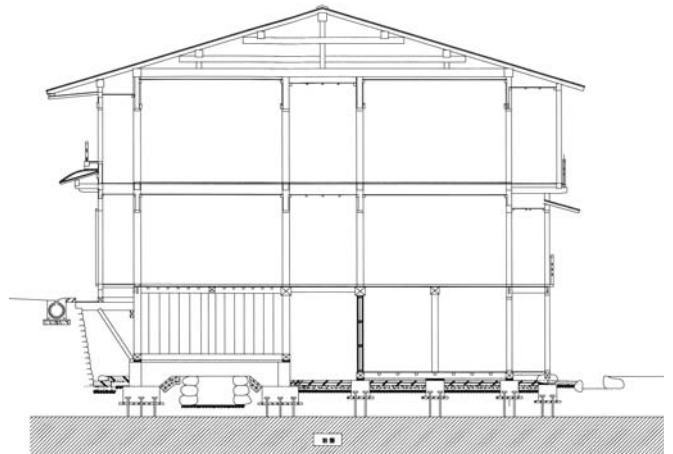
修理後倉庫：防水シート上に土間コンを打設し湿気の問題を解消した。



修理後背面外観：当初雨戸が残っていたので、雨戸の外観を復原。



昭和30年代の城山館：写真に写っている一階雨戸が二枚残っていた。



竣工断面図：1m下の岩盤に杭を打ちその上にコンクリート独立基礎を打設。

自治保存会
育成事業

世界遺産 石見銀山を 訪ねて



大森代官所前にて

今年で四回目を迎える保存会育成事業による視察研修は七月一日〜三日の日程で島根県大田市温泉津・大森町と広島県広島市に行ってきた。参加者は十五名で一日目は遠方のため、一日バスでの移動となり、石見銀山の外港でもあり伝建地区の温泉津で宿泊をしました。二日目は早朝より温泉津の見学の後、石見銀山の視察を行い、大田市の関係者の方々との意見交流、三日目は負の遺産として世界遺産に登録された原爆ドームの視察を行いました。

ました。白川村が現在も抱える観光車両の問題に対し、世界遺産登録前より取組んでいる石見銀山方式パーク&ライドを中心とした視察を行いました。

パーク&ライド

石見銀山は狭隘な地域で、道幅も狭く、車のすれ違いも困難なため石見銀山方式パーク&ライドが実施されています。

パーク&ライドとは、観光車両を離れた駐車場に停め、路線バス等で町中まで移動させたり、乗降所を設け、車両を指定の駐車場で待機させるといった方式で遺産地区内への車両規制を行うものです。全国でも様々な取り組みが行われており、地球環境への配慮にもなるこれからの交通スタイルといわれています。



銀山公園バス乗降所

歩く観光

石見銀山の観光スタイルとして自然環境に配慮し、環境に最も負荷を与えない「歩く観光」を目指し、そ

のスタイル確立のため様々な見直しや検討が行われています。銀山公園から石見銀山遺跡（龍源寺間歩）までは、片道二キロ、約四分の道程で、「銀山遊歩道」が整備されており、自然の木立の中をゆっくり散策できます。舗装された道を歩くのとは違い、しばし時間や距離を忘れられます。



銀山遊歩道は気持ちが良いです。

成果と課題点

銀山地区、町並み地区の視察が終わった後、町並交流センターにおいて大田市教育委員会、産業振興部の担当者の方を交えて意見交換会を行いました。

パーク&ライドの実施で、町の中はたくさん車で混雑することなく穏やかに、住民や観光客が安心して歩けるようになり、歩く観光も概ね好評とのことでしたが、ピーク時の駐車場不足や、移動が制約される観光客の輸送手段、歩く観光にお

けるお年寄りや小さな子ども連れ等への配慮など検討課題も多いとのことでした。



町並交流センターの意見交換会

石見銀山スタイル

石見銀山では、遺跡・自然・人々の調和した姿を価値として、

- ・ 価値を守り育む
- ・ 価値を活かし高める
- ・ 価値を理解し伝える

持続可能な地域づくり「石見銀山スタイル」の実現を行動計画として、今後の活動の方向性を明確にしています。

反面教師と言われた白川郷ですが、四月からは集落内への大型バス乗り入れ規制が開始されます。新しい白川郷スタイルの始動とともに「歩く観光」についても真剣に考える必要があると体感した研修でした。



大森銀山のまちなみ

せせらぎ公園小呂駐車場 平成二十年度の 入込み

せせらぎ公園小呂駐車場の入込みは、昨年度急激な伸びを記録しましたが、今年度はその台数など一気に突き放す勢いで急増しました。普通車は十一月三日の段階で昨年度台数を突破、二月二十二日には十万台を越え、最終的に十万六千台となりました。バスも十一月二十二日に昨年度台数を超えて、三月末には一万九千台となりました。どちらも駐車場運営開始以来の最高記録です。昨年度対比は普通車が百二十%、約二万四千台増、バスが百四十四%、約六千台増となります。

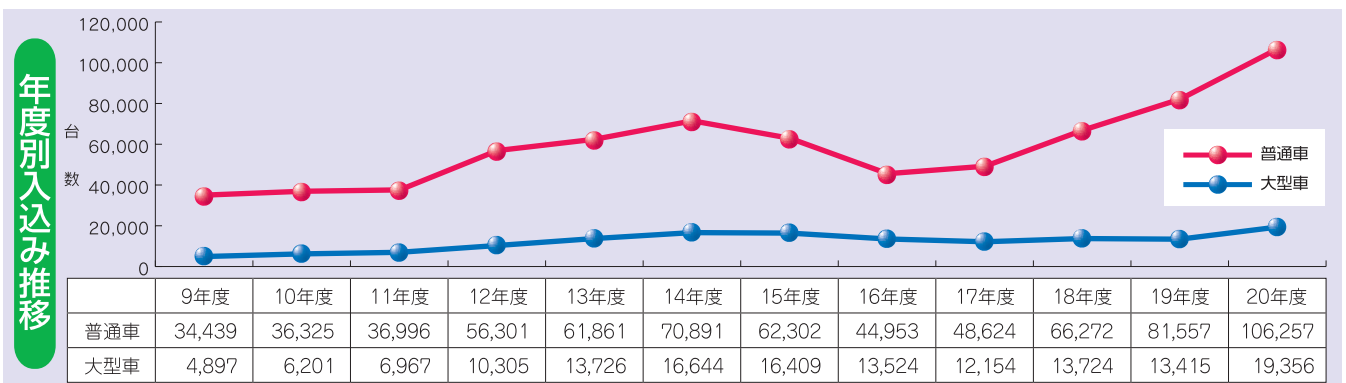
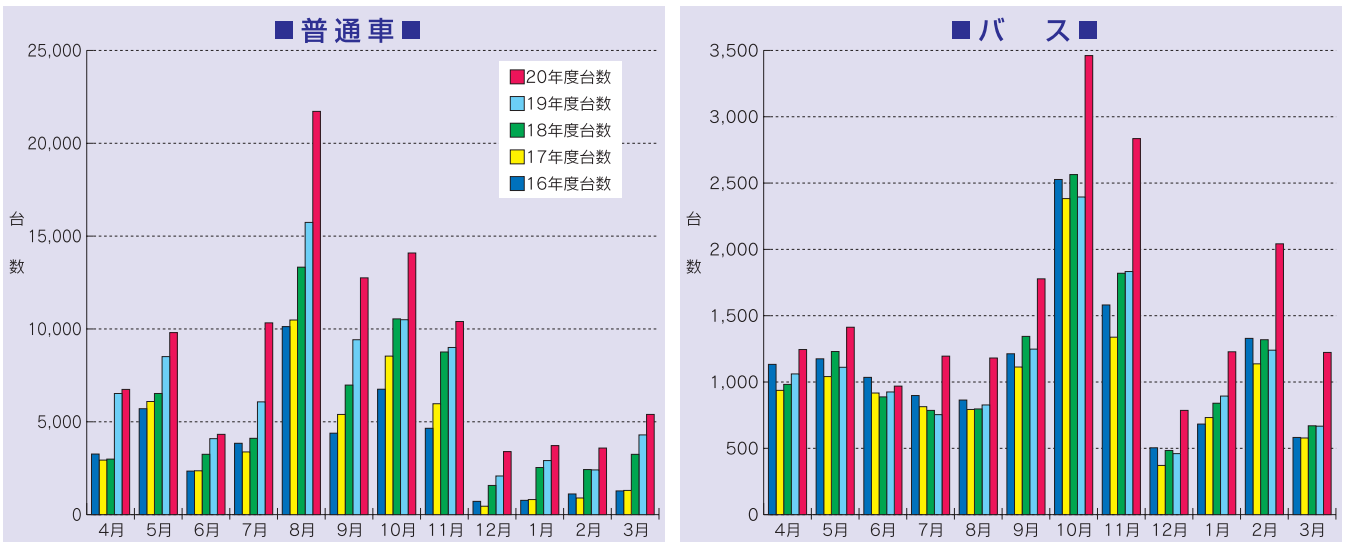
年間を通して見てみると、昨年度からの増加傾向が春から夏にかけて続いていきましたが、やはり東海北陸自動車道の全線開通となった七月以降、普通車、バス共に急激に増加したことがグラフにも顕著に表れています。八月の普通車台数は二万一千台、これは一日平均七百台以上入場している計算になりキャパシティ二百台程度の駐車場は常に満車状態でした。普通車の伸びは秋の紅葉シーズンにかけても続きましたが、秋は秋で、これまで見たこともないような観光バスの大軍を連日受け入れることとなりました。入場車両の

増加傾向は冬以降も衰えることなく現在に至っています。

もちろんこのデータはせせらぎ公園小呂駐車場のみの数値であり、混雑期には集落内個人駐車場や、萩町、みだしま、寺尾臨時駐車場それぞれが、フル稼働状態でしたが、それでも高速度路白川郷インターからの渋滞が途切れることなく繋がるといった状況が何日も続きました。

新交通システム運用による萩町地区交通対策検証は平成二十一年度も引き続きおこなわれますが、一応の成果として、白川村では平成二十一年度、寺尾地区に駐車場を整備することが決定しました。トイレ、シャトルバス乗降所も付設され、今より利便性が良くなります。また四月より集落内の景観保全と混雑緩和を目的として集落への大型バス乗り入れ規制がはじまります。バスはせせらぎ駐車場のみ利用可能となります。白川郷へお越しくださる皆様には、いっそうのご協力をお願いすることとなりますが、今後も推敲を重ねつつ、より良い観光地を目指していきたいと思えます。

平成16~20年度 せせらぎ公園小呂駐車場月別入込み台数比較



年度別入込み推移

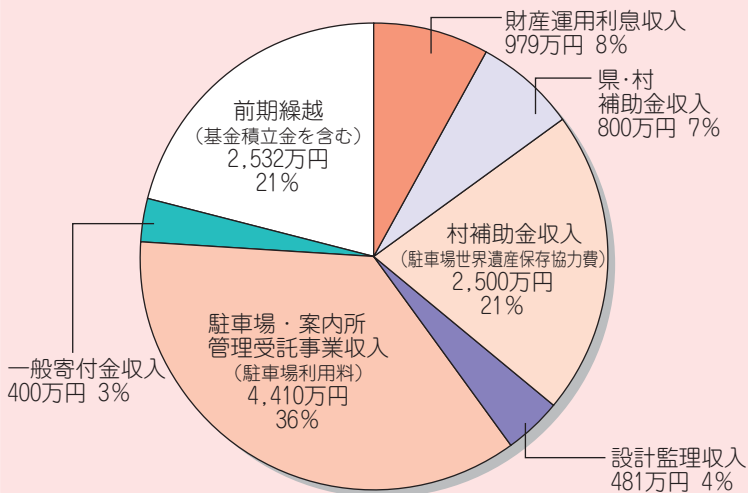
・・・財団法人世界遺産白川郷合掌造り保存財団・・・

平成20年度

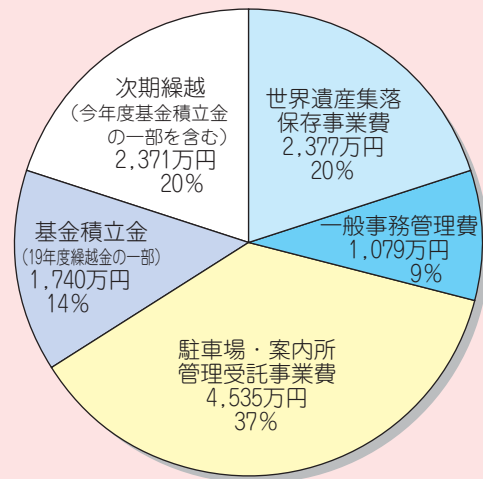
会計のあらまし

財団が、どのような収入を得て、どのように支出しているのか、平成20年度の会計状況をお伝えします。

歳入1億2,102万円



歳出1億2,102万円



平成20年度の主な事業

1. 修理事業		10,275,000円
差し茅	14棟	5,059,000円
伝統的建造物修理		0円
棟茅葺替	90棟	5,159,000円
トタン屋根葺替	1棟	57,000円
2. 修景事業		3,125,081円
修景協力費助成	6棟	2,325,000円
トタン屋根葺替	2棟	417,000円
ビニールシート指定色奨励事業	24枚	132,771円
一般建築物茅屋根補修	2棟	101,000円
オダレ助成	20枚	149,310円
3. 地域活性化事業		1,656,100円
自治保存会活動費助成		1,000,000円
自治保存会育成事業 石見銀山・広島		656,100円
4. 調査普及事業		6,027,004円
新交通システムの実施調査		6,027,004円
5. 水田復旧事業		545,181円
耕作放棄地の復旧 水田43.3a、畑0.7a		545,181円

合計 21,628,366円

財源内訳

県補助金	4,000,000円
村補助金	17,600,000円
基金運用利息	28,366円

合計 21,628,366円

財団が受託管理運営しているせせらぎ公園及び駐車場では利用客から駐車場利用料（普通車300円・大型車2,000円）、世界遺産保存協力費（普通車200円・大型車1,000円）の二種類を徴収しています。これらの収入は財団から一旦村に収められます。

そのうち駐車場利用料はせせらぎ公園及び駐車場の維持管理費に当てられ、一部は駐車場・案内所管理受託事業費として財団の歳入となります。世界遺産保存協力費は世界遺産地区の保存のために使われます。こちらの一部が村から事業及び運営費補助金として財団に入ります。これは財団の主目的である世界遺産集落保存事業を遂行するための大切な収入源となっております。平成20年度のせせらぎ公園小呂駐車場収入は、来場者の増加により昨年度を大きく上回り、駐車場利用料約6,871万円、世界遺産保存協力費約4,060万円となりました。その内財団では駐車場、案内所管理受託事業費として4,400万円、事業及び運営費補助金として2,500万円を村からの収入として活用させていただきました。

財団が保有する基金は約7億円、20年度は979万円の利息となりました。財団の貴重な自主財源として集落保存事業を中心に活用しています。元々は皆様から頂いた寄付金から始まった基金ですので今後も大切に管理運用していきたいと考えております。

財団が保持している基金の現在額 (平成21年3月)

基本財産	302,361,000円
運用財産	397,664,160円
合計	700,025,160円

ありがとうございます 募金で協力者一覧 (敬称略)

平成20年度

- 東京都 和田多美子/池井辰雄
- 埼玉県 細谷恵子/川田紗英子
- 千葉県 篠 榮吉
- 神奈川県 小野幸子/北村秀雄/古谷義幸/生田信行
- 奈良県 松下幸代
- 岡山県 丸山初子
- 長野県 田中敏博/鈴木/早川美和子/平岡 豊/
- 岐阜県 (株)高山グリーンホテル 代表 新谷尚樹/
- (有)高山観光写真/早川寛雄
- 愛知県 森 顕敏/株式会社セディナ
- 三重県 紺谷圭子
- 滋賀県 (株)文教スタジオ 代表 一圓泰成
- 和歌山県 石田真紀
- 大阪府 野見山妙子
- 兵庫県 西本照也/長田達子
- 愛媛県 渦岡平一郎
- 香川県 柴田 聰
- 徳島県 北西洋介
- 福岡県 野中利郎/上野至朗
小林ゆき

竹筒募金

白川郷の湯/城山館/民宿 十右エ門/民宿 志みづ/民宿のだにや/民宿 久松/民宿 ふるさと/民宿 きどや/民宿 幸エ門/民宿 与四郎/民宿 利兵衛/民宿 一茶/民宿 かんじゃ/民宿 よそべえ/民宿 やまもと/民宿 孫右エ門/民宿 原作/民宿 よきち/民宿 わだや/民宿 伊三郎/民宿 大田屋/民宿 松兵衛/お食事処 忠兵衛/基太の庄/白楽/喫茶 狩人/食事喫茶 今昔/飛騨路/手打ちそば処 乃むら/しらおぎ/たなか屋/味処 ゆきんこ/白水園/いろり/喫茶 さとう/城山天守閣/あらい食堂/珈琲 鄙/喫茶 千晴/ます園 文助/ごばんしょう/合掌/ちとせ/いさなみ/お土産 一飛/お土産 恵びすや/お土産 おいしんぼ/文化喫茶 郷愁/お土産 山峡の家/お土産 山楽堂/お土産 おけさ/お土産 山香/佐藤民芸品店/お土産 ぜん助/お土産 しゃくなげ/お土産 山里/お土産 合掌苑/今藤商店/お土産 合掌庵/お土産 こびきや/お土産 古太神/元気な野菜館/焰仁美術館/合掌造り民家園/どぶろく祭りの館/国重文 和田家/明善寺郷土館/ふる郷 長瀬家/神田家/鳩谷郵便局/白川郷観光協会/総合案内であいの館/トヨタ白川郷自然学校/道の駅白川郷/お土産 めめんこ/貸自転車てづか/食事 与ゼ/いっぶくちな

世界遺産白川郷合掌集落保存基金にご理解とご協力を

合掌財団では世界遺産集落の景観保護を行うため、合掌造り家屋の修理に対する助成や合掌造りを取り巻く全ての建物が農村風景に影響を与えないような修景に対する助成等を中心に、集落到暮らす住民の生活により密着した事業展開を心がけております。

それらの経費を賄うには、合掌財団のわずかな基本財産の運用益だけでははるかに及ばないのが現状です。現在はそれを補う窮余の策として岐阜

県の助成を得て、白川村が緊縮財政の中から捻出しています。今後の社会情勢の変化に伴い、合掌財団に対して要請される事業がますます多様化していくものと予想されます。合掌財団がこのような課題にできるだけすみやかに、的確に対処していくためには基本財産をより充実させ、運用できる果実をもっとも増やさなくてはなりません。どうか合掌財団の趣旨にご賛同くださり、皆様の暖かいご支援、ご協力をお願いします。

**基金に対する
ご寄付お送り先
及び資料請求先**

- 振替による場合**
- ・郵便振替口座 00810-6-51954
 - ・飛騨農業協同組合白川支店(普) 9203800

現金書留による場合及び資料請求先

〒501-5627 岐阜県大野郡白川村荻町2495-3
(財)世界遺産白川郷合掌造り保存財団
TEL(05769)6-3111 FAX(05769)6-3113
☆インターネットでも受け付けています。
<http://shirakawa-go.org/kikin.html>

編集後記

平成二十年七月、東海北陸自動車道の新線開通と同時にかねてからの予想通り観光客数は爆発的に増加しました。この観光客の増加傾向ですが当分の間続くと言わざるを得ないようです。ETC利用者に限定した高速道路休日特別割引がこの春から導入され、週末のマイカーによる行楽客の増加が報道されたばかりです。また白川郷自体の知名度についても、フランスの「ミシュラングリーンガイド・ジャポン」にて、観光地として高山や五箇山と並び三つ星評価(わざわざ訪れる価値がある)されたことが国内外で話題となっております。

そんな中、駐車場内で観光客を眺めているとやはり外国人が増えたことに驚かされます。四、五年前から台湾、韓国の団体客が増えていましたが、現在は西欧系や東南アジア系など様々な国から団体旅行で訪れています。国土交通省等が中心となって行われている「YOKOSO! JAPAN」を掲げたビジット・ジャパン・キャンペーンが功を奏しているだけでなく、外国人観光客誘致の先進地である高山から客が流れてきている影響も大きいようです。

時間的にも金額的にも、うんと近くなった白川郷。今後しばらくは国内外から観光客が殺到するでしょう。好むと好まざるに関係なく、状況は刻々と変化しています。私たち受け入れる側も、時代の変化に飲み込まれることなく、乗り切っていかなければと思います。